

Institute for Language Education  
Aichi University, Nagoya

# Boken News

No. 26 December 2011



## ボストン・エーコン通り (Acorn Street)

18世紀・19世紀に建てられたレンガ造りの家が軒を連ねるアメリカ・マサチューセッツ州ボストンの「ビーコンヒル」(Beacon Hill) 地域で、最も有名な通り。小道には小石が敷き詰められ、道端にはガス灯がある。

## CONTENTS

- ・ Connect with the world from inside Japan.  
(ニコラス・ブラドリー)…………… 2
- ・ 大学における英語学習の意味：  
英語との心地よい付き合い方を見つけよう(2)  
(古荘 智子)…………… 3
- ・ D.H. ロレンス作  
『処女とジブシー』に登場する黒い男  
(山田 晶子)…………… 4
- ・ ★★★★★の洋書(2)  
不運？ 不器用？ 滑稽？  
～読者を引き込むルイス・サッカーの本～  
(小坂 敦子)…………… 6
- ・ 白い雪と黄色い雲  
(矢田 博士)…………… 8
- ・ 拆哪儿？—最新中国語おもしろ探訪  
(薛 鳴)…………… 11
- ◆海外最新事情
- ・ 「鶏西」を知っていますか(1)  
中国東北バスの旅  
(梅田 康子)…………… 13
- ・ 欧州危機を乗り切れるか？  
(中尾 浩)…………… 14

## Connect with the world from inside Japan.

語学教育研究室  
Nicholas Bradley

It is well known that the best way to become a skilful communicator in a language is to, well....regularly communicate in that language. Using the language often and in a real and meaningful way is one of the best ways to increase your communication skills. The language ability of homestay and study-abroad students is evidence of this.

Not everyone, however, has the time, money or desire to leave the country on a mission of language learning. So what can you do? Well there are many ways for students of English to interact with native speakers, use real English in real ways and never have to leave Japan. Here are some suggestions for Japanese learners of English who wish to use English in Japan.

### Internet Options.

The internet is a wonderful tool and thousands of websites can be found to help you with grammar, vocabulary, expressions and so on. They do not, however, tell you much you cannot already find in a textbook or hear on a CD or DVD. These sites can be useful, but I particularly recommend some sites that are not actually for learning English. Here are two of my recommendations:

- **www.epals.com** is a website made to connect educational institutions around the world. The website is used mainly by teachers but students are free to use the site also. The site connects teachers, students and classrooms around the world with shared international interests. Many of these interests focus on culture and language

so you can find and interact with students learning Japanese or who are interested in Japanese culture. There are many options for students to explore such as videoconferencing, exchanges, email exchange and more. Also, the website itself offers help to users and supports them with software that may assist their educational needs.

- **www.japan-guide.com** is a commercial website providing information about Japan for foreigners. Many people visit the website and a large number of questions about Japan are posted daily. These provide excellent material for learners of English as the questions are written in the real English used by native speakers. Answering them will help your English and help someone who wants to know about Japan. You are experts on Japan; use your knowledge, practice your English and help someone!

### English community in Japan.

Although websites may be a good substitute, there is nothing better than getting out and using the language. Nagoya is home to a large number of foreigners. Many of these foreigners are helped by the Nagoya International Center (NIC). NIC runs many programs to help foreigners in Japan (<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/nicnews/>). These programs are staffed by volunteers and include giving advice to foreigners about life in Nagoya, giving guided tours in English of Nagoya Castle and other sites, or just assisting in the cultural events hosted by NIC. Volunteering is a great way to use English, develop your intercultural skills, make friends, and improve your CV!

If volunteering sounds like too much, you can simply attend the cultural events. You can also find details of many different cultural organizations and meetings in the Nagoya Calendar magazine made by NIC. The magazine is free and you can get it outside the library on the third floor of the Nagoya International Center building. I also have a limited number of copies which you are welcome to take.

Opportunities to communicate in English in a real and meaningful way may be limited in Japan, but they do exist. Go find them!!

## 大学における英語学習の意味： 英語との心地よい付き合い方を見 つけよう(2)

語学教育研究室  
古荘 智子

### 1. はじめに

先々回 (No.24) に続き e-learning を利用し、「楽しく、手軽に」できる英語学習法を紹介します。言語を習得するために、ある程度時間をかけ学習を積み重ねていく必要があります。学習すること自体が楽しい、あるいは、学習内容に興味があり面白い、と感じられることは、自律的にコツコツと学習を継続し、やがて高い目標をクリアするために必要な原動力になります。苦痛や不快ばかりが伴う作業は、短期間ならば耐えられますが、長続きはしないことを、私を含めて皆さんも経験を通し、よくご存知のことでしょう。「ああ、楽しいなあ」と、夢中になって取り組んでいるうちに英語の力がついていたら理想的です。「英語を勉強する」ことを意識せず、英語を通して自分の好きなもの、興味があることへの世界を広げるのだ、と考えると、英語に対するアプローチが今までとは少し変わってくるのではないのでしょうか。そのようなことを踏まえて、今回は web 上の映像メディア (動画) を使った英語学習法を紹介したいと思います。

### 2. English Central を使った英語学習

English Central (<http://www.englishcentral.com>) は英語学習者に提供されている Web 上の無料サイトです。他大学では、正規の授業で利用しているところもあり、学会では発話の流暢さ (fluency)

の向上などに関する学習効果が発表されています。筆者も本学のある授業で、補助教材として取り入れています。毎回授業の導入として、短い時間利用する程度ですが、受講生は自分の好きな動画を使い、オーセンティックな英語 (英語教材用に加工していない、生の英語) を視聴しながら、マイクに向かって自分もセリフを声に出して録音する、するとスコアが表示される、という作業に、斬新さも手伝って、楽しそうに取り組んでいます。先週の授業では多くの受講生が、つい先日亡くなった前アップル CEO スティーブ・ジョブズ氏に関する『スティーブ・ジョブズの印象に残る瞬間』というクリップを視聴していました。教材として利用するコンテンツはこのようなホットなトピックから、ニュース、CM、有名人のスピーチ、『ローマの休日』のようなクラシック映画や『崖の上のポニョ』の英語版に至るまで、ありとあらゆるジャンルのものが含まれています。簡単な操作で視聴できますので、皆さんもぜひ一度試して下さい。

#### 2-1. 利用方法

English Central の利用方法を流れに沿って簡単に説明します。1) まず初めにビデオクリップを選びます。クリップの数が非常に多いので、好みや目的別にカテゴリ分けされた中から選択するか、もしくは、英語の難易度を目安に選択します。2) 次に、ビデオを視聴します。音声は英語のSCRIPTと日本語和訳によって確認できますが、必要がなければ非表示に設定する事も可能です。3) 再度ビデオを再生します。今回は、1センテンスごとに、ポーズが置かれますので、そこで自分の音声を録音します。録音が終了するとすぐに採点結果 (スコア) が表示され、それと同時に画面上には、発音矯正が必要な単語が点減し、ポイントアドバイスがフィードバックされます。うまく発音できなかった単語をマウスオーバーすると、モデルの発音を聴くことができ、そこで発音の練習ができます。また、録音した自分の音声を再生して、発音をチェックしたり、モデルの音声と自分の音声を比較しながら聞き直すこともできます。4) 正しい発音を聞きながら何度か練習し、録音→採点を繰り返し、スコアを目安に完成度を高めていきます。納得がいくまでスコアを伸ばしたら (満点があります)、次のセンテンスへと進

みます。すべてのセンテンスが終了すると、合計得点と評価（A+～F）が表示されます。学習が終了したクリップは、学習履歴へ記録されます。1つのビデオクリップは約1分程度で、ビデオ学習にかかる時間は約10分～15分ほどです。

### 3. 既知語の知識を生かそう

筆者は以前から、受講生の皆さんは、比較的沢山の単語の知識があるにも拘わらず、正確に発音できない単語が多いこと、そして音読が苦手であることに問題を感じていました。単語と音声結びつかなければ、スピーキング、リスニングに支障をきたします。特にリスニングは、1つ1つの単語の発音の正確さに加えて、2つ以上の単語の組み合わせによって起きる、音の融合や連結などの現象や、あるいは日本語にはない英語独特のリズムや強勢などを理解し、慣れておくことが大切です。

話を戻しますが、担当科目の受講生の皆さんには、毎学期始めと終わりに語彙サイズを測るテストを行っています。テストの結果から、多くの受講生の皆さんが、自律的な英語学習者に必要とされている最初の閾（いき）値をクリアしている、またはそれに近いレベルであることが示されています。苦勞して覚えた単語を、実際に使えなければ勿体ないと思いませんか。既知語（知っている単語）を使って、自分の好きなアーティストのインタビューや、映画のセリフなどを声に出しながら、自然に無理なく英語独特の発音やアクセント、音のつながりやリズムに慣れ、自分のものにしてみてはいかがでしょうか。その過程で遭遇する知らない単語は、その都度覚えていけばよいのです。

### 4. むすび

英語学習を取り巻く環境は、情報機器やメディアの発展により、驚くほど進歩し、変化しています。それに伴い、映像メディアを使った英語の指導に関する実践や研究も盛んに行われています。今までは、英語に興味を持てなかった学習者の皆さんに、そして、英語をもっと勉強したいと思っている皆さんにとって魅力的な英語の学習方法や教材は、きっと沢山あると思います。授業内外で学習者の皆さんが、英語と心地よく付き合える方法（個々人に合った学習方法）を見つけ、それによって自律的・継続的に目標へと向かっていける

ようサポートすることもまた、英語の教員にとって重要な役割の一つであろうと思っています。TOEICのような即戦力的で、テストの結果（点数）ばかりが重視される時代ではありますが、興味の赴くまま知識の世界を広げ、深めていく、そのプロセスを楽しみながら、自分の学びのスタイルを確立していく作業もまた大学時代には大切なことのように思います。なお、追記になりますが、上述した『スティーブ・ジョブズの印象に残る瞬間』の中で、ジョブズ氏がスタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの全文と動画が、スタンフォード大学のサイト <http://news.stanford.edu/news/2005/june15/jobs-061505.html/> に掲載されています。また、英語と日本語字幕付き動画は <http://sago.livedoor.biz/archives/50251034.html> などでも視聴することができます。ジョブズ氏のスピーチには、やがては社会へとばばたく大学生の皆さんにとって腹に落ちる言葉が散りばめられていると思います。是非視聴して下さい。

## D.H. ロレンス作 『処女とジプシー』に登場 する黒い男

経営学部  
山田 晶子

文化的生活（既知の世界）と非文化的生活（未知の世界）の対立は、ロレンスの多くの作品の中心テーマである。彼は、世界各地を回り、ついにニューメキシコへ至る。そこで白人文明に汚染されていないニューメキシコの砂漠の偉大な美、誇り高い純粋さに感動した。赤色インディアンの踊りは宗教的なものであり、大地へ吸い込まれるような印象を与えた。ロレンスの、表面の下へ行きたいという願いを彼らは成就しているのであり、それにより強さ、力、精力を与える偉大な宇宙の生命力の根源と接触しているのである。ロレンス

は、ニューメキシコで出会ったインディアンとの出会いを通じて自らの文学のテーマを深め、発展させることができた。彼の作品の中で非文化的な生活をしているのは、文化圏の周辺で暮らす人々であり、身分が賤しかったり、放浪したりしている人間である。本稿では、このような非文化圏で生きている「黒い男」を、後期中編小説である『処女とジプシー』（1930）から見てみたい。

『処女とジプシー』の主人公は、イベットという若い未婚の女性であり、牧師館で「おふくろさま」と呼ばれる祖母に育てられている。この祖母は石のように無情で何かを隠している仮面のようなものである、と述べられており、イギリスの因習的なキリスト教に束縛された社会を象徴していると考えられる。汚れていないイベットがいかにしてこの牧師館から逃れることができるのか、ということが作品のテーマである。彼女を救ってくれることになったのは、ジプシーの男であった。「おふくろさま」のしつこい干渉を振り切って、友達とドライブに出かけたイベットは、山頂の石切り場でジプシーに出会うが、ジプシーはロレンス的な肯定される人物として登場している。彼は山下にある俗界を超越したような人間で、美しく威厳があり高貴である。彼は「黒」のイメージを備えている。黒いズボン、黒い靴を履き、黒っぽい緑色の帽子をかぶり、黒い髪、黒い目、黒い手としなやかな足を持っている。そして法の下に生きる人間を冷笑する無法者の、大胆で誇り高い眼差しをしている。黒い皮膚をしていることから、彼が南方の人間の血筋を引く者であることが分かる。このことが牧師館の冷たい不毛性と対比されて、彼は温かな生命力を持った人間であることを暗示している。イベットはジプシーの男を見て心を惹かれる。彼が人生について自分と同じ見方をしており、自分より強いただ一人の人間であることを感じる。彼は彼女の心の琴線、核に触れたのである。ジプシーの男は、牧師館の固い石に象徴される頑固な人々とは正反対で、柔らかさ、純粹さ、しなやかさが強調されており、生命力を帯びている。

ジプシーの男に出会って以来、イベットの心は意識と無意識の状態に分裂し、階段の踊り場から常に窓の外を眺めて何かを待ち受けるようになり、ジプシーの男が時々彼女の意識へ上ってくる。彼がだんだんと彼女の心に根を下ろしていく様子

は、彼女が、自分は周囲の人間とは異なった存在であると気づいていく過程に示されている。二回目に会ったとき、ジプシーの男の視線は、彼女がこれまでに見られたことがないような、彼女の女としての核を射るようなものであり、反対に他の白い人間は彼女の表面しか見ず、彼女の「女」の本質を決して見ることはできないと思われる。しかしジプシーの男は彼女にそれを目覚めさせる力を持っているのである。白い男と黒い男の対比において、白は本来の清浄さの意味を失って汚れており、反対に黒は清らかな意味を持っているのである。

ジプシーの男とイベットの関係の真実性は、彼が彼女を「欲望した」（“desired”）という表現で述べられているが、この欲望はイベットには真に素晴らしいものと感じられる。その欲望を感じることができる者は王であり、真の自己を知った人間なのである。イベットはジプシーの男の欲望を感じた時、今までとは全く異なった感じを抱く。常識と「異質」になることが救われるためには必要なのである。

この頃イベットには牧師館での生活が死ぬほど退屈で、無気力な状態に陥る。まさしく生きながら死んでいるかのように。だがその時、降り続いた雨とトンネル事故のためにダムが決壊し、庭に出ていたイベットを目がけてパブル川の水がライオンのように襲ってくる。すると洪水と同時にジプシーの男が彼女を助けに現われ、洪水は彼女を滅ぼすためではなく救うために来たのであり、ジプシーの男がその使いであったことが分かる。洪水は牧師館の中に一人だけ残っていた「おふくろさま」を溺死させ、ジプシーの男はイベットを救出する。すべてのものをむさぼりなぎ倒す洪水は3メートル以上の深さがあると思われ、まるで海のような光景である。それは「この世の終わりの夜」と描かれているようにノアの洪水を思わせる。ジプシーの男とイベットはノアの箱舟の中にいるかのように、何とか倒れないで残っている牧師館の屋根裏部屋へと逃れて、二人とも裸になって体を温め合うのである。ジプシーの男はその身体の熱によってイベットの肉体をよみがえらせたのであるが、同時に彼女の魂をもよみがえらせたのである。彼は怒りの洪水の海となって彼女を死の館から救ったのである。洪水がライオンのイメージ

を帯びていることと、ジプシーの目がトラの目のように燃えていることが、両者の共通性を表している。水のイメージには正負両方の意味があり、洪水が浄化の象徴として正の意味を持つ一方で、降り続いた雨は「悲しみ」の象徴として負の意味を持っている。イベットが助かったのは初春であり、大自然の中で新しい生命が芽吹く時イベットも再生するのである。

### ★★★★★の洋書(2)

#### 不運？ 不器用？ 滑稽？

～読者を引き込むルイス・サッকারの本～

法学部

小坂 敦子

ルイス・サッカー (Louis Sachar) はアメリカでは子どもたちに大人気の作家の一人で、私も楽しく20冊ぐらい読みました。今回は、その中から私にとっての「とっておき」を中心に紹介します。

ルイス・サッカーの本は、9～12歳向けのものが多いので、洋書を読み始めて間もない人にも、自分の好みに合った本が選べれば<sup>1</sup>、楽しく読破するのにそれほどハードルは高くはないと思います。また、大きめの活字で80ページ程度の短編から、細かい活字で200ページを超すようなものまで、長さもいろいろありますので、英語を読むことにどの程度慣れているのかという点からも、幅をもって選択できます。

子どもたちに人気のある理由を私なりに考えてみました。まずはユーモアたっぷり、軽妙洒脱。ちょっとありえないというか極端だと思える場面もあります。登場人物は必死なのですが、一生懸命さの裏返しで、傍から見ると滑稽に見えたりする、そんな視点を味わえるときもあります。

ルイス・サッカーの本をアマゾンで検索しているときに、*Johnny's in the Basement*<sup>2</sup> という本のカスタマー・レビューの中に「SACHAR 得意の “ち

よっと不運な男の子” が恋をし、友情を深めながら少しずつ成長していく姿がよく描かれています<sup>3</sup> という文を見つけました。

「ちょっと不運な男の子」、と読んで、「そうか、そういう見方もあるのだな」と思いました。私自身は、「不運」というよりは、「不器用な」男の子を描くのがとても上手だと感じていたからです。

ルイス・サッカーの著作の中で、私が好きな本には共通点があります。それは、「不運」にせよ「不器用」にせよ、決して理想的とは思えない状況の中で、決して完璧でない主人公が、弱さを持ちながらも健気に生きていこうとすることです。その道は、順風満帆ではないので、私はすっかり応援モードになって、ドキドキ・ハラハラしながら引き込まれてしまいます。そして、あっと言う間に最後のページが近づいてきて、「もう少し読んでいたいなあ」と思いつつ、最後の20～30ページは思わずゆっくり味わって読んでしまいます。特に次の3冊がそうでした。

*Super Fast, Out of Control!*<sup>4</sup>

*Small Steps*<sup>5</sup>

*Dogs Don't Tell Jokes*<sup>6</sup>

この3冊について、以下、少し説明します。

#### *Super Fast, Out of Control!*

この作品は *Marvin Redpost* というシリーズ<sup>7</sup> 中の7冊目です。自分にはできそうもないことに、不本意にも直面させられていく主人公の気持の描き方が上手いと思いました。“It felt good to make his own decision.” (73ページ) とか、“Only one person cared whether or not Marvin Redpost rode his bike down Suicide Hill. That person was Marvin Redpost.” (79ページ) など、人生を語っている？ ような台詞もいくつかありました。

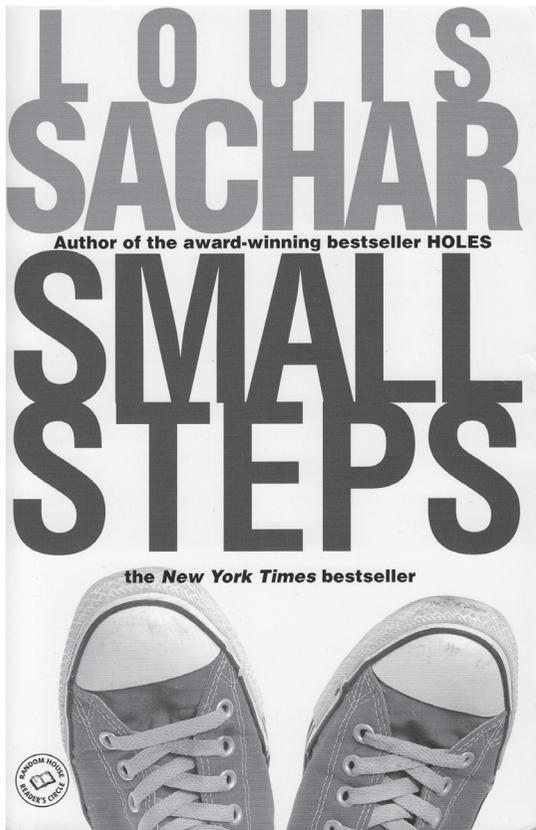
このシリーズは1冊が短く(80ページ程度)活字も大きいので、英語の苦手な人にも手にとりやすいと思いますし、「洋書にチャレンジする」足慣らし?にもよいと思います。

#### *Small Steps*

ルイス・サッカーと言うと、ニューベリー賞を受賞した *Holes*<sup>8</sup> を思い浮かべる人が多いと思います。この本は、*Holes* の登場人物の一人 Armpit (「脇の下」という意味) というあだ名で呼ばれて

いた少年を中心に話が進みます。彼は *Holes* では「グリーン・レイク少年矯正キャンプ」にいました。*Small Steps* では、矯正キャンプの後の人生を、一歩ずつ前に向かって歩いていこうとしています。なかなか簡単にはいきません。*Holes* は賞もとり、映画にもなり<sup>9</sup>、よく知られている本ですが、私はこの *Small Steps* の方が数倍気に入っています。*Small Steps* は話の進展にドキドキで、途中で深呼吸をしないと読み続けられないぐらいでした。

*Holes* は細かい活字で200ページ以上ありますので、あまり英語を読んでいない人には、いきなり *Holes* を読むのは少しいへんかもしれません。アマゾン等でレビューを読み、なんとなくでも *Holes* について少し知識をいれてから *Small Steps* を読むとよいかもかもしれません。



#### Dogs Don't Tell Jokes

ここに登場する Gary 君も健気で不器用だと思います。本人は stand-up comedian (お笑いタレント、ジョークを立て続けに語ってみんなを笑わすような人) の才能があると信じています。しかし、

なかなか周囲には認めてもらえません。

活字は大きめで、200ページぐらいの本です。本のあちこちらに出てくる英語のジョークの中には、ちょっと理解しにくいものがあるかもしれません。

なお、*Someday Angeline*<sup>10</sup>でも Gary 君は登場します。

上記の3冊以外にも強く印象に残っているものとしては、以下の2冊があります。

#### There's a Boy in the Girl's Bathroom<sup>11</sup>

児童文学の賞も受賞している本です。問題児と見られている Bradley 君と学校のカウンセラー Carla さんとの関わり、そして、友人の Jeff 君との関係の変化が、とても上手く描かれています。

#### The Cardturner<sup>12</sup>

今まで紹介してきた本とは少し異なり、この本の舞台はブリッジの世界です。ブリッジはカードゲームの一種ですが、ブリッジの知識がなくても楽しめるような工夫がされています。亡くなった人が活躍する不思議な本でもあります。

読書の秋、勉強に疲れたときはルイス・サッカーの洋書で楽しく気分転換はいかがでしょう？

#### (注)

1 「自分の好みに合った本が選べれば」と下線までひいたのは、私自身、ルイス・サッカーの中でも、楽しめなくて挫折した本もあるからです。具体的には *Sideways Arithmetic from Wayside School* (Scholastic より1989年に出版) と *More Sideways Arithmetic from Wayside School* (Scholastic より1994年に出版) です。この2冊は算数の本です。数学の好きな高校生に見せると、「簡単だった」というようなことを言っていました。算数・数学ともに苦手だった私には解けない問題もけっこう多くて、途中でいやになってしまいました。逆に数学が得意人にはいいかもしれません。

ちなみにこの2冊が舞台となっているのは Wayside School という常軌を逸した不思議な学校です。ルイス・サッカーはこの学校について次の3冊の本を書いています。

- (1) *Sideways Stories from Wayside School* は Follett Pub. Co. より1978年に出版。イラストは Dennis Hockerman。
- (2) *Wayside School Is Falling Down* は1989年に Lothrop, Lee

& Shepard Books より出版、イラストは Joel Schick。

- (3) *Wayside School Gets a Little Stranger* は Morrow Junior Books より1995年に出版、イラストは Joel Schick。

この学校については、好き嫌いが分かれるかもしれませんが、ルイスという著者と同じファーストネームの「校庭係の教師」も登場します。このルイスからは、子どもたちへの暖かい眼差しがしっかり感じられます。

- 2 Avon Books より1981年に出版  
 3 このカスタマー・レビューは以下に載っていました。  
[http://www.amazon.co.jp/gp/product/0380834510/ref=oss\\_product](http://www.amazon.co.jp/gp/product/0380834510/ref=oss_product)  
 4 Random House より2000年に出版。イラストは Amy Wummer。  
 5 Delacorte Press より2006年に出版。  
 6 Knopf より1991年に出版。  
 7 このシリーズは現在のところ8冊が出版されています。主人公の名前は Marvin Redpost。1冊ずつ話は完結します。このシリーズでは、私は3冊目 *Is He a Girl?* (Random House より1993年に出版、イラストは Barbara Sullivan) と6冊目 *Class President* (Random House より1999年に出版、イラストは Amy Wummer) がかなり好きです。  
 8 Dell Laurel-Leaf Books より2001年に出版。  
 9 2004年にブエナ・ビスタ・ホーム・エンターテイメントより「穴/Holes」というDVDが発売。  
 10 Avon Books より1983年に出版。イラストは Barbara Samuels。  
 11 Knopf より1987年に出版。  
 12 Delacorte Press より2010年に出版。

## 白い雪と黄色い雲

経営学部  
矢田 博士

木末北山煙冉冉  
 木末 北山 煙は冉冉たり  
 草根南澗水泠泠  
 草根 南澗 水は泠泠たり

繰成白雪桑重緑

白雪を繰り成せば 桑は重ねて緑に

割尽黄雲稲正青

黄雲を割り尽くせば 稲は正に青し

北宋・王安石の「木末」と題する七言絶句である。王安石は、神宗の時に宰相に抜擢され、「新法」と呼ばれる急進的な政治改革を敢行したことで知られるが、晩年は政治の一線から退き、江寧（江蘇省南京市）に隠居した。江寧府城の北の郊外には鍾山という名の山が横たわる。本詩は、江寧隠居後の作で、鍾山の麓の初夏の田園風景を描く。「冉冉」は、徐々に移りゆくさま。「泠泠」は、水が清らかなさま。

—《北に目をやると、山を包み込んでいた霧がしだいに薄れゆき、木々の梢が姿を現しはじめた。南に目をやると、谷川の兩岸に草が生い茂り、その草の根のあたりを清らかな水がさらさらと流れている。「白い雪」を紡ぎおえたかと思えば、桑は再び緑の葉を茂らせ、「黄色い雲」を刈り尽したかと思えば、稲はまさに青々とその葉を伸ばす。》—

後半二句に見える「白雪」と「黄雲」を、ここではあえて文字通り「白い雪」と「黄色い雲」と訳したが、「繰」「割」という動詞が用いられていることから、それぞれ「白い繭から紡ぎ出される生糸」と「黄金色に穂を实らせた一面の麦畑」の比喩であることが察せられよう。<sup>(1)</sup> 農家の女は、繭から生糸を紡ぐ作業を終えたかと思えば、引き続き蚕を育てるための桑摘みの作業に移る。一方、農家の男は、麦の収穫を終えたかと思えば、秋の収穫に向けて稲の成長を見守る。後半の二句は、このような初夏の一連の農事を詠ったもので、「白い繭から紡ぎ出される生糸」に「緑に茂る桑の葉」、「黄金色に実った麦の穂」に「青々と伸びる稲の葉」と、初夏の田園の風景が、あたかも一幅の絵を見ているかのように、色鮮やかに目に浮かぶであろう。ちなみに、穀物は一般に、秋に実りの季節を迎えるが、麦は旧暦の初夏四月に穂を实らせる。よって、旧暦の四月（新暦では五月）頃を、「麦にとっての実りの秋」という意味で、「麦秋」と呼ぶ。

ところで、本詩の後半二句に見える「白雪」「黄雲」の比喩表現は、後世の詩評家の注目するところ

ろとなった。ただし、その評価については賛否が分かれるようである。まず、南宋・惠洪は『冷齋夜話』巻五の中で、以下のように言う。

荆公用其意、作古今不經人道語。荆公詩曰、「木末北山煙冉冉、……、割尽黄雲稻正青」。  
〔荆公 其の意を用うるに、古今 人の道うを経ざるの語を作る。荆公の詩に曰わく、「木末 北山 煙は冉冉たり、……、黄雲を割り尽くせば 稲は正に青し」と。〕

惠洪はまず初めに、「王安石（荆国公に封ぜられたので荆公と呼ばれる）は、その言わんとしていることを表現するにあたり、古より今に至るまで、誰もが言ったことのない語を作り出した。」と、王安石の表現の独創性を高く評価したうえで、さらにその具体例として本詩を挙げる。

惠洪はまた、同じく『冷齋夜話』巻四の中で、以下のように言う。

用事琢句、妙在言其用、不言其名耳。此法唯荆公・東坡・山谷三老知之。荆公曰、「含風鳴緑鱗鱗起、弄日驚黄裊裊垂」。此言水柳之用、而不言水柳之名也。東坡「答子由」詩曰、「……」。山谷曰、「……」。〔用事琢句、妙は其の用を言うも、其の名を言わざるに在るのみ。此の法 唯だ荆公・東坡・山谷の三老のみ之れを知る。荆公曰わく、「風を含み鳴のごとく緑にして 鱗鱗として起こり、日を弄び驚のごとく黄にして 裊裊として垂る」と。此れ水と柳の用を言うも、水と柳の名を言わざるなり。東坡の「子由に答う」詩に曰わく、「……」と。山谷曰わく、「……」と。〕

惠洪はここでもまず初めに、「詩に故事を用いたり、詩句を磨きあげたりする場合、その神業にも近い巧みさは、その事物の表に現れた特質を言っても、その事物の名を言わない、という点にある。ただ荆公（王安石）・東坡（蘇軾のこと。東坡はその号）・山谷（黄庭堅のこと。山谷はその号）の三人だけがその方法を理解している。」と、王安石と蘇軾と黄庭堅の詩人としての優れた点を評したうえで、その具体例として、それぞれ三人の詩句を挙げる。

惠洪は、ここでは王安石の例として本詩の当該

の二句とは異なる詩句を挙げているが、それに対して南宋・胡仔は『若溪漁隱叢話前集』巻三十六の中で、上記の惠洪の説をほぼそのまま引用したうえで、惠洪の説を補足するかのよう、以下のように言う。

若溪漁隱曰、荆公詩云、「縑成白雪桑重緑、割尽黄雲稻正青」。白雪則糸、黄雲則麦、亦不言其名也。  
〔若溪漁隱曰わく、荆公の詩に、「白雪を繰り成せば 桑は重ねて緑に、黄雲を割り尽くせば 稲は正に青し」と云う。白雪は則ち糸なり、黄雲は則ち麦なり、亦た其の名を言わざるなり。〕

つまり胡仔は、王安石の当該の二句もまた、「事物の名を言わずして、その事物の表に現れた特質を言う」という「琢句」における「妙」の一例であると指摘するのである。

このように、王安石の詩に見える「白雪」「黄雲」の比喩表現を高く評価する者がいる一方で、王安石のこの比喩表現に対して、いささか難色を示す者もいたようである。南宋・孫奕がその人で、『履齋示兒編』巻十「詩説・白雪黄雲」に、以下のよう言う。

詩人喜荆公「縑成白雪桑重緑、割尽黄雲稻正青」之句、莫不極口称誦。而不知其有斧鑿痕。竊謂雪不成縑、雲不可割。請易縑為捲、易割為収、則糸麦自見。

〔詩人 荆公の「白雪を繰り成せば 桑は重ねて緑に、黄雲を割り尽くせば 稲は正に青し」の句を喜び、口を極めて称誦せざる莫し。而れども其の斧鑿の痕有るを知らざるなり。竊かに謂えらく、雪は縑るを成さず、雲は割るべからずと。請うらくは、「縑る」を易えて「捲く」と為し、「割る」を易えて「収む」と為さんことを、則ち糸と麦と自ずから見るるなり。〕

この記述によれば、当時の詩人のなかにも、王安石の当該の二句をたいそう気に入る、常々それを絶賛していた者がいたようである。しかし孫奕は、王安石の当該の二句には「斧鑿の痕（句作りにおける工夫の痕跡）」が見え見えであることを知らないのだと、その詩人を批判する。おそらく

孫奕は、「糸」「麦」をすぐさま連想させる「繰」「割」という動詞が用いられていることに不満を抱き、それを「斧鑿の痕」と称したのであろう。そこで孫奕は、「繰」「割」という動詞を、それぞれ「捲」「収」という動詞に換えることを提案する。おそらく孫奕は、以下のように考えたのであろう。——熟語として成り立ちがたい「繰雪（雪を繰る）」「割雲（雲を割る）」という表現を、熟語としてすでに定着している「捲雪（雪を捲く）」「収雲（雲を収む）」という表現に換えたならば、「雪は繰るを成さず、雲は割るべからず」という問題も解消されるばかりか、「斧鑿の痕」を消すこともできる。そしてさらに「捲成白雪」「収尽黄雲」と改めたとしても、「捲糸（糸を捲く）」「収麦（麦を収む）」への連想も十分に可能であることから、「白雪」「黄雲」がそれぞれ「糸」「麦」を比喩していることは、自ずと分かる。——と。

「雪は紡ぐことができないし、雲は刈ることができない」という孫奕の理屈は、確かにその通りではあるが、かといって「捲雪（雪を捲く）」「収雲（雲を収む）」のように換えてしまっただけでは、表現としてはあまりにもありきたりで、かえって面白みに欠けてしまうのではないだろうか。本来であれば結びつきにくい「繰」と「雪」、「割」と「雲」とを結びつけたところにも、王安石の当該の二句の面白さを見て取ることができるように思われるのである。あえて言えば、王安石の当該の二句のなかでは、「雪も紡ぐことができるし、雲も刈ることができる」のである。その意味では、筆者は「人の道（みち）を経（た）ざるの語（ことば）を作る」と評した恵洪（けいこう）の説に与（ま）りたい。

また絶句の一字目は、平仄の制約が必ずしも厳しくない箇所ではあるが、孫奕の修正案—「捲成白雪桑重緑、収尽黄雲稻正青」—よりも、王安石のものと詩句—「繰成白雪桑重緑、割尽黄雲稻正青」—の方が平仄面でのバランスもよいようである。

以上、人の評価は様々であるが、王安石自身はいえ、当該の二句をたいそう気に入っていたらしく、「壬戌五月与和叔同遊齊安〔壬戌五月、和叔（とも）と共に齊安に遊ぶ〕」と題する七言絶句の中でも、そっくりそのままそれを用いている。「壬戌五月」とは、すなわち神宗の元豊五年（一〇八二）五月のこと。江寧府の知事の任にあった陳繹（あざな）（字

は和叔）とともに江寧府城の東の門外にあった齊安院という寺院に出かけた折りの作で、時に王安石は六十二歳であった。「木末」詩とどちらが先に作られたのかは不明であるが、ほぼ同時期の作であろう。最後にその詩を紹介して筆を擱くこととする。

繰成白雪桑重緑

白雪を繰り成せば 桑は重ねて緑に

割尽黄雲稻正青

黄雲を割り尽くせば 稲は正に青し

它日玉堂揮翰手

它日 玉堂 翰を揮うの手

芳時同此賦林垌

芳時 同に此くのごとく 林垌を賦さん

《『白い雪』を紡ぎおえたかと思えば、桑は再び緑の葉を茂らせ、「黄色い雲」を刈り尽したかと思えば、稲はまさに青々とその葉を伸ばす。いつかまた、この寺のお堂で筆を揮って、春のよき時節に共にこうして郊外の風景を詩に詠おう。》

#### 【注】

- (1) 一面に広がる麦畑、初夏に黄金色に実った麦の穂が風になびくさまを目にすると、確かに黄色い雲の上にもいるかのように感じられる。この近辺では、五月の初旬から中旬にかけて、東海道新幹線の三河安城駅の周辺、あるいは名鉄名古屋本線で豊橋に向かう途中、新安城駅を通過したあたりで、このような景色を車窓から目にすることができる。
- (2) 王安石の「南浦」と題する七言絶句の後半の二句である。「鴨緑」とは、鴨の頭が碧緑色であること。ここでは碧緑色に澄んだ水を比喩する。「鶯黄」とは、鶯鳥の雛の羽毛が淡い黄色であること。ここではまだ緑が濃くなる前の春先の、淡い黄色の柳の枝葉を比喩する。「裊裊」は、しなやかなさま。二句の大意は以下の通り。—《風を受けて、鴨の頭の色にも似た碧緑色の水面に、鱗状にさざ波がたち、日の光を浴びて、鶯鳥の雛の柔らかな羽毛の色にも似た淡い黄色の柳の枝がしなやかに垂れる。》—
- (3) 王安石は句を作るにあたり苦心に苦心を重ねたと言われる。例えば、その七言絶句「泊船瓜

州〔船を瓜州に泊す〕詩の転句—「春風又緑江南岸〔春風 又た江南の岸を緑にす〕—については、草稿段階では「春風又到江南岸〔春風 又た江南の岸に到る〕」としていた。しかし「到」字が気に入らず、「過」字に改めた。しかしそれも気に入らず、「入」字に改め、さらには「満」字に改めるなど、推敲に推敲を重ねること十数字にして、ようやく「緑」字に決めたと言う（南宋・洪邁『容齋続筆』第八）。このように句作りに相当のこだわりを見せた王安石が「緑成白雪桑重緑、割尽黄雲稻正青」の二句については、異なる二首の詩のなかで繰り返し用いているところから見て、彼自身この二句の出来映えについては納得していたものと思われる。

## 拆哪儿？—最新中国語おもしろ探訪

現代中国学部  
薛 鳴

教学の一環として、わが学部では2年生全員を中国南開大学に留学させ、中国語と中国文化を勉強させる現地プログラム—「現プロ」を実施している。その引率で今年度の春学期を天津で過ごした。

事情あって二週間遅れの現地入りは、ちょうど世界を震撼させた「3・11」大震災発生の直後だった。不安から母国へ、外国へと脱出しようとする人々で賑わう空港の出発ロビー。期せずにして、地震と原発の影響下にある日本を離れることになる自分がいるとは、なんとも不思議に思えた。

中国に来ると、まず耳にしたのは“抢盐”——塩の買いだめである。日本の海が放射能で汚染され、海水からできる塩化ナトリウムの結晶である塩も「核」に汚染されるとなると、日本海から来

る潮が塩になるからと、一夜にして、塩の値段が何倍も跳ね上がり、人々は塩の買いだめに奔走する。携帯のチェーンメールに“大核民族、盐荒子孙”というのが広く流伝し、ユーモアに皮肉も込められ、人々の口から口へと伝えられるに至った。いうまでもなく、“大和民族、炎黄子孙”をもじったものである。“核”と“和”は同じ“hé”と発音し、大和民族が一瞬にして「核」を帯びる民族になり、“盐荒”と“炎黄”は、声調がやや違うが同じ“yan huang”という発音から、“炎帝”と“黄帝”の子孫である“炎黄子孙”と誇りを持って自称する中華民族の子孫が塩不足にオロオロしていることになる。もちろん、事はそれほど短絡的なものでないことが判られ、その騒ぎもほどなく収まった。その後の原発への反省に、“核去何从”（“何去何从”をもじったもの。“核”と“何”は共に“hé”と発音する）といったような文言が新聞の紙面に躍り、我々は一体いずれを去り、いずれに従うか、身の処し方に疑問を投げ付けられる。

このような同音異義語を利用するものは“谐音”と言って、広く中国語のレトリックな表現に用いられている。古くから“歇后语”に使われるものに、“孔夫子搬家——净输（书）”のようなものがある。「負けてばかりいる」と言うために、「孔子の引っ越し——本ばかり」を持ちだして、“书”（shū）と“输”（shū）の“谐音”を利用して、ワンクッションを置いて面白おかしく表現する効果をもたらす。ほかに“外甥点灯笼——照旧（舅）”（依然として変わらない様を表す。“旧”と“舅”は発音が同じ“jiù”である）のようなものよく知られている。

一方、携帯電話やインターネットの普及によって、情報伝達のツールも多様化しているなか、中国では携帯電子メール（“短信”）に数多くのチェーンメールが回っている。数々の風刺やユーモアが、その“短信”に乗って人から人へと伝わっている。冒頭の例もそうだが、新年の挨拶に次のようなチェーンメールが回る。

祝你在新的年里，“钱”程似锦，“富”如东海，“瘦”比南山，“性”福美满，“薪”春快乐！

本来の“前程似锦，福如东海，寿比南山，幸福美满，新春快乐”が、一文字をすり替えただけで、現代人の欲望を巧みに表している。

“钱” = “前” qián; “富” fù = “福” fú; “瘦” =

“寿” shòu ; “性” = “幸” xìng ; “薪” (給料の意) = “新” xīn

このように、四文字成語を“偷梁換柱”(文字をすり替える)して広告に使われる例も見る。例えば、アイロンコピーのキャッチフレーズに“百衣百順”というのがある。それは“百依百順”(全面的服従の意)の“依”(yī)が同じ発音の“衣”にとって代われ、服も言う(思う)がままになるアイロンであると謳う。また、浴室の湯沸かし器のコピーに“随心所欲”とあって、“随心所欲”(思うがままに)と掛ける(浴=欲 yù)。百貨店のファッション売り場では秋の新作を“早秋狂潮, 试不可挡”——「秋を先取り、試着が止まらない」というキャッチコピーで客の心をくすぐる。“试不可挡”は“势不可挡”に掛けて(“试”=“势” shì)「勢いが止まるところを知らない」と掛かっている。また、マイホームの売り出し広告に“贷动房产, 直抵梦想”——「ローンを組んで夢(マイホーム)へまっしぐら」というのがあるが、“贷动”(dàidòng)は“带动”(dàidòng「リードする」)と掛かり、“直抵”(zhí dǐ)は“值得”(zhí de「~する価値がある」)と掛かっている。

同音異義語を利用したキャッチフレーズはインパクトがあって宣伝効果を高めるが、それはしかし、中国人の教養(学力)をはかる“白字”と紙一重である。“白字”とは“错别字”(誤字)のことであり、漢字しかない中国語で文章を書くにあたって、字が思い出せなくても、日本語のように仮名に代わってピンインで書くわけにはいかない。もっとも日本語でも漢字があるのに仮名で書くのは好ましいことではないが、中国語の場合は、同じ発音の別の字で代用する、または間違いとも知らずに同音異字を書いてしまうと、直ちに“白字”と言われ、学力が足りないと思なされてしまう。一方、パソコンの普及で文字の電子化に伴い、文字は「書く」ものから、「打つ」ものになってしまっ、人々は否応なしに、数多くの同音語や誤変換との格闘に曝されることになる。幸か不幸か誤変換が定着してしまう用法(と言っても決して規範的ではない)も多く見られるようになった。ことにミニブログ(“微博”)となると、言葉のしゃれな使い方が枚挙に暇がない。“什么”(shénme)を“神马”(shénmǎ)と書き“神马都是浮云”がブログ上の合い言葉になっているようだ。“什么

都是浮云”「何もかも空に浮かぶ雲のようだ」。如何に解釈するかは読む人に任せる。人生の儚さとも、手に届かないもどかしさとも読める。さあ、あなたはどうか解釈するか。

次の例もある。

人生如一桌酒席, 上面摆满了杯具。人生はまるで宴会のようだ。テーブルには盃がいっぱい置いてある。

何を意味しているのか、文字通りの解釈では分からないが、“杯具”(bēijù)と悲劇(bēijù 悲劇)が掛かっているとすれば、なるほどと思わせる一句である。

誓言只是一时的失言。(誓いの言葉はただ一時的な失言にすぎない)

“誓”(shì)と“失”(shī)、似ている発音を利用したシャレである。公約は失言とも取れかねない一方、問題発言は「失言だった」と言い逃れをしようとする一部政治家の言動を思うと、よく言い当てているのではない。

そして、極め付きは表題の“拆哪儿”である。北京は“后海”界隈にある“煙袋斜街”。清末頃、主に煙管などの喫煙道具や掛け軸の表装、玉の装飾品などを扱う、200メートル余の伝統的な北京の風情が漂う“胡同”(横丁)である。2007年に復興工事の後、文化商業街と定められた。筆者がそこのある店で見たマグカップに書かれた文字である。オバマを毛沢東に見立てた顔写真がプリントされたTシャツや、“为人民服务”(人民のために奉仕する)を“为人民币服务”(人民幣のために奉仕する)ともじった文言など、覚えきれないほど数多くの風刺の言葉が書かれた小物を扱っている。アイデアを盗まれるのを恐れるためか、店内撮影禁止で一生懸命覚えようとするなか、記憶装置をわざわざ稼働させなくても音とともに脳裏に焼き付いて離れないのが、この三文字である。中国の街を歩くと、至る所で工事が行われていることに気が付くが、北京では、伝統的な胡同も“拆”(取り壊す)の運命を免れないほど、古い建物に“拆”という文字が書かれている。此処も彼処も“拆”。では、次は何処を“拆”するか。それを中国語で“拆哪儿”と言う。ここまでは、まだ表題の謎掛けは終わらない。“拆哪儿”——中国語で発音すると“chāinǎr”。China をアメリカ英語風に巻き舌で発音するのと同じなのだ。

# (海外最新事情)

## 中国

### 「鶏西」を知っていますか(1)中国東北バスの旅

現代中国学部 梅田 康子

みなさんは、「鶏西」という地名を聞いたことがありますか。2005年に朝日新聞で紹介されたこの町は、これまでたびたび日本のマスコミに取り上げられています。



鶏西市は、中国最北の省である黒龍江省の東部に位置し、緯度はおおよそ稚内と同じです。省都ハルビンから約200キロ、バスで7時間ほどです（地図参照）。東はロシアと国境を接していて、興凱湖（ロシア名：ハンカ湖）という巨大な湖が国境を跨いでいます。この湖の面積は琵琶湖の6倍強、向こう岸も見えないし、海のように波を打っています。それで、観光に訪れる人も多いのですが、日本のマスコミで紹介されたのはそのことではありません。もともと炭鉱の町として有名だった鶏西市は、大勢の若者が中国各地から集まり日本語を学ぶ「日本語の町」として賑わっていたので

す。記事によると、当時は16の日本語学校で年間約6,700人が学び、「言葉を身につけるなら鶏西へ行け」と言われるほどでした。2007年にもNHKの「中国鉄道大紀行」で関口知宏が訪ねています。中国各地から日本語学習のためだけに集まった若者が、寮で生活し、朝から晩まで毎日集中的に日本語を学ぶ…。大教室で、大人数が大声で繰り返し暗唱する日本語文——。いつかこの目で見たいと思っていたのですが、ついに今夏、そのチャンスが来ました。鶏西の日本語学校の先生が、愛大大学院に留学、現在は院を修了し、研究生として



ハルビン～鶏西～鶏東の長距離バス



バスターミナルで切符を買う列



高速 SA のトイレはかわいい建物

愛大に在籍しているので、そのついでで学校見学をお願いしたのです。

今回は、他の予定との兼ね合いで、北京経由で行くことにしました。8月13日（土）中部国際空港9：20発のCA160便にて北京空港へ。北京で4時間ほどの乗り継ぎ待ちをして、国内線でハルビン空港に18：20到着。市内に入ったときにはすっかり夜になっていました。この日はハルビンに宿泊し、翌日のバス移動に備えます。翌10時、ホテルをチェックアウトし、長距離バスターミナルへ移動。日曜だからかターミナルは激混みでしたが、なんとかバスに乗りこむことができました。バスは日本のバスとそう変わらず、車内にはトイレ、DVD モニター、防犯カメラが設置されていました。同じバスに鶏西に行く新入生がいました。彼は英語コースの新入生でしたが、やはり「語学をやるなら鶏西」という評判を聞いて、入学を決めたそうです。翌週から新学年がスタートするので、ちょうどこの時期は新入生の入校ラッシュ。それでハルビンには学校の事務職員が泊まり込んで、旅館のお出迎えよろしく、各地から次々に到着する新入生を駅からバス乗り場へと案内していました。何でも広い中国。駅前だって大きいし、何かを探して歩くのは本当に疲れます。ですから、出迎えは新入生にとって心も体もホッとさせるサービスと言えるでしょう。途中2回の休憩をはさんで7時間半、ようやく鶏西に到着しました。7時間半は長かった…座席はリクライニングできるの

ですが間隔が狭く、ただ寝るのが一番…な旅でした。（次号へ続く）

参考：朝日新聞「国境の都市に日本語ブーム」  
2005年10月6日夕刊

## ヨーロッパ

### 欧州危機を乗り切れるか？

法学部 中尾 浩

連日大きく報道されている通り、現在、ヨーロッパは未曾有の金融危機に陥っている。ギリシャ、スペイン、ポルトガルなどで債務危機が生じ、とりわけギリシャがもはや待たなしの状態にまでなっている。もっとも、政治や経済の専門家ではない私に現在の欧州危機について解説する能力などあるわけがない。しかし、国民性から今日の欧州危機の由来と行く末について、特にジョークを手掛かりに考えてみたい。

お読みになった方も多と思われるが、2005年出版され、根強い人気を持っているジョーク本に早坂隆氏の『世界の日本人ジョーク集』（中公新書ラクレ）がある。一時期、新聞の広告欄にもよく載ったので、覚えている人もいると思うが、豪華客船が沈没しそうになって、船長が各国の男性に海に飛び込んでもらうために、各国ごとに頼み方を変えるジョークがある。早坂氏の本から引用してみよう。

アメリカ人には「飛び込めばあなたは英雄ですよ」  
イギリス人には「飛び込めばあなたは紳士ですよ」  
ドイツ人には「飛び込むのがこの船の規則になっています」

イタリア人には「飛び込むと女性にもてますよ」  
フランス人には「飛び込まないでください」

日本人には「みんな飛び込んでいますよ」（pp. 110-111）

アメリカ人と日本人を除いては、いずれも EU 加盟国ばかりである。私の貧しい海外経験からも、確かに、うなずける点が多々ある。2009年にフランスに一年滞在した時に仲良くなった家族の母親はドイツ人であった。彼女は、車が全く来っていないが歩行者信号は赤の横断歩道で、周りのフランス人がどんどん「信号無視」をしている、「規則を守らなければいけません」と決して渡らなかった。そして、「日本人も規則を守る国民なんでしょう?」と言われた時には、かなりフランス人化していたつもりの方は、本当は車が来ていないんだから渡りたかったが、ドイツ人の友人に合わせてしまう、という、まことに日本人らしい行動を取ってしまった。



オルレアンのカテドラル

ギリシャというと皆さんはどんな国だと想像するだろうか。残念ながら私はギリシャはまだ訪れたことがないのだが、ソクラテスやプラトンを生んだ国だから、哲学、学問好きといったイメージをなんとなく抱いていた。しかし、実際にはなかなかユニークな国民性のようで、残念ながらここには書けないようなジョークが多い。早い話が、

ジョークの対象としては、哲学だの学問だのとは正反対の国民だと認識されているようだ。ギリシャが通貨統合に加わる時にもドイツなどはギリシャの財政政策がルーズであると指摘していたが、逆にギリシャの加入に寛容的だったのがフランスだった。

そのようなお互いに、まったく異なった価値観や国民性を持ったヨーロッパ諸国が政治、経済を統合して、これからの社会を乗り切ろうという大実験に着手したことがまずもって恐るべきことであって、不協和音が聞こえてきても当然である。むしろ、ユーロ政策もよく10年ももったものだとさえ思える。

しかし、おそらく今日の未曾有の金融危機を乗り切る原動力になるのもこの国民性の違いではなかろうか。石橋をたたいても渡らない慎重居士のイギリス、何事にも厳密なドイツ、どんなときにも希望を失わないイタリア、常に懐疑的な視点を忘れないフランスなど、こうした様々な特徴を持った国民によって検討されつくしてこそ、解決の道は見えてくるのではないか。

具体的・個別的には複数の対策をたばねた包括策を実施するしかない。有効と思われる政策のいくつかを組み合わせ、少しずつ立て直していくしかないだろう。その時にこそ、EUの精神である多様性が発揮されるべきである。

今回の欧州危機は様々な国民や民族が様々な視点から様々な意見を検討し尽くして難問解決に挑む大手術であるとも言える。



ヨーロッパは歴史と秩序と平和を守ることができるのか？

#### 〈編集後記〉

2011年も暮れようとしています。多くの人々にとって今年3月に起きた東日本大震災は忘れられない出来事になりました。また、それに起因する原発事故は、日本から遠く離れた人々にも大きな衝撃を与えました。私もいろいろなことを真剣に考えなければいけないと改めて感じた年でした。皆さんにとって今年はどのような1年でしたか。

さて、今号は、黒笹からお届けする最後の語研ニュースとなりました。交通の便や冬の寒さなどいろいろ不満もありましたが、いざ離れるとなると、美しい自然環境、開放的でのびのび活動できる空間が惜しくなります。来年から私たちの学びの場となるささしまは、黒笹とはまったく異なる都市型キャンパスです。自然とは遠くなりますが、他機関との交流が容易になり、いい刺激がもらえそうです。そして、ささしまでは、今までの英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語、日本語に加えて、ロシア語とタイ語も履修できるようになります。名古屋語学教育研究室にもこの2言語が加わりますので、語研ニュースもいっそう幅広い情報をお届けできると思います。2012年新生・名古屋語学教育研究室にご期待ください。



MIT キリアン・コート (MIT Killian Court)

アメリカ・マサチューセッツ工科大学 (MIT) の名所。学位授与式がこの芝生で行われる。MIT では時々学生が学内で“hack”と呼ばれるいたづらを行うが、1994年にはこの建物のてっぺんにパトカーを乗せるhackが行われ、警察やメディアを巻き込む大ニュースとなった。実はhackに使われていたパトカーは本物ではなくダミーであった。